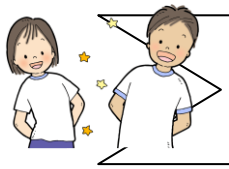

相ノ木っ子だより

令和元年度
学校だより
９　月　号
上市町立相ノ木小学校

富山県出身アスリートたちの活躍

秋季大運動会を目前に、子供たちは張り切って練習に取り組んでいます。校長として、昨年は平成最後、今年は令和最初の運動会を体験することができ、子供たちや先生方、保護者や地域の皆さんと共に時代の節目に行事を行える喜びを噛み締めています。

この相ノ木小学校グラウンドでは、これまでたくさんの先輩方が力の限り走り、競い合ってきました。そして、最高学年の６年生にとっては、運営や応援の主役となる大きな行事であり、毎年それが積み重ねられてきました。節目の年とは言え、今年もそんな歴史の一ページを飾るわけで、スローガン「燃えろ相ノ木　一致団結！熱く激しく全力で勝利に向かって突き進め!!」のもと、今年の６年生がリーダーシップを十二分に発揮し、みんなで団結力を高め、各団の熱い戦いが繰り広げられるであろう運動会をとても楽しみにしています。

さて、運動やスポーツと言えば、今年ほど富山県出身アスリートたちの活躍が際立った年はなかったように思います。県出身力士として１０３年ぶりとなる大相撲５月場所初優勝を飾った朝乃山関、ＮＢＡ１巡指名を受けて世界で更なる活躍が期待される八村塁選手、上市町出身で夏の高校野球準優勝を果たした星稜高校４番バッター内山壮真選手。これまでも活躍する姿を見てきましたが、今年は各人の精進、努力が花開き、報われたという感がします。

とは言え、今年の活躍が集大成ではありませんし、アスリートとしてここからが大事でしょう。そういう意味では、この先も長い競技人生が待っているでしょうし、まだまだ自分を鍛え、磨くことを続けていかなければならないのでしょうね。そんなことを考えると、たいへんな素質の持ち主ばかりではあるのですが、常人では考えられないような、血のにじむ努力を彼らはずっとしているのです。

元サッカー日本代表選手の本田圭佑選手は、次のように言っています。

世界一になるには
世界一の努力が必要だ

小学生の頃から「世界で活躍するサッカー選手になる」という夢を抱き続けた本田選手は、そのために食事や睡眠、練習メニュー、語学等あらゆる努力をしてきました。オリンピックやワールドカップでの活躍は素晴らしいものでしたが、ビッグマウスと陰口を叩かれるぐらいの自信満々の言動に、日本人らしい謙虚さはないものかと思ったりもしました。しかし、有言実行に向けた強い心をもち続けていたことを今更ながらに感じます。その精神力こそが、サッカー選手としての素質を上回る才能だったのだと思います。

また、マラソンランナー有森裕子さんがアトランタオリンピックで銅メダルを獲得した際に発した有名な言葉です。

自分で自分をほめたい

当時わたしは、有森さんのこの言葉を聞き、前回のバルセロナオリンピックでは銀メダルを取ったのになぜ銅メダルで満足するのだろうか、自分で自分をほめるなんて恥ずかしくないのだろうかと思ったりしました。しかし、その思いを詳しく述べた言葉も有名ですね。

メダルの色は銅かもしれませんけれども、
終わってから何でもっとがんばれなかったのかと思うようなレースはしたくなかったし、
今回はそう思っていないし、
初めて自分で自分をほめたいと思います。

「そう思っていない」「初めて自分を」という言葉に、彼女の「やり切った感」が伺えます。マラソンという世界、オリンピックという舞台、それに向けた日々、わたしたちの想像を遥かに超える生き様がそこにはあるんですね。わたしたちが知ることのないアスリートたちの覚悟や努力に本当に感服します。

身近な県出身アスリートたちの活躍を応援しながら、わたしたちも少しでもアスリートたちの「高みを目指す覚悟」「人から見えない努力」を見習っていきたいものだと考えます。

よく学び、よく遊べ

「ぼくも、まぜて」「いいよ」「じゃんけん、ぽい」

運動会の練習の合間にも、グラウンドに出て元気よく遊ぶ子供たちの姿があります。「こんなに体を動かして疲れないのかな」と心配する一方、「やはり子供たちは元気だな」とそのタフさに感心させられます。子供たちにとっては、学習と遊びは別物のようです。放課後も学校に来て、サッカーや鉄棒にいそしむ子供たちの姿もよく見られます。

昔から「よく学び、よく遊べ」と言われます。子供たちの健全な成長には、「学び」も「遊び」も大切であるということですが、「学んだこと」が身になるためには「遊び」が必要であり、「遊んだこと」が身になるためにも「学び」が必要です。子供たちは、いろいろな体験をして学び、仲間と遊んで学び、大人と関わることで学んでいます。ですから、子供の「多様な学び」のためには、「多様な遊び」や「多様な体験」が必要になるのです。今とはずいぶんかけ離れていた数十年前、わたしも友達と工夫しながらよく遊びました。小さな棒があれば地面に円を描いて陣取りゲームをし、柔らかなボール一つあれば名前を叫んで寺の屋根に投げて落ちてくるボールを取り合い、雨の日には大きな紙に手作りした人生ゲーム風のゲームを楽しみました。友達と関わり合って楽しみ、喜び、時にけんかしたり、けがをしたりしながら多くのことを学んでいたように思います。

さて、ずいぶん前になりますが、世界保健機関（ＷＨＯ）が「ゲーム障害」を国際疾病に認定しました。「ゲーム障害」とは、ゲームをする時間や頻度を自ら制御できない、ゲームを最優先する、問題が起きているのに続けるなど、ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になることです。本校でもゲーム好きな子供たちが多数見受けられ、「まだそこまでは」と思いますが、「このままだと…」と心配になってきます。ゲンキッズ作戦のアンケートからも、「朝起きられない」「物や人に当たる」といった回答も多く、気になります。

遊びや遊び方が昔と違うのは当然です。便利なものがなく、工夫せざるを得なかった時代と違い、いつでも、どこでも手軽に魅力的なもので遊べる今は、工夫することなど必要ないでしょう。また、ゲームをすることで学ぶこともあることでしょう。でも、情報にあふれ、便利になった今こそ、学んだことをさらに身に付けていくような遊び、人との関わりから社会性等を学ぶ遊びが、子供たちにとって必要だと思います。そして、ゲームという遊びに引っ張り回されるのではなく、自分で切り開く自主性、自分で生活を管理できる自律性を子供たちにはしっかりと身に付けてもらいたいものです。

ドイツの劇作家ベルトルト・ブレヒトは、次のように言っています。

見慣れたことを見慣れぬように
当たり前のことを不思議なように
「原則」さえもおかしいと考えてほしい。

普段ゲームをすることが当たり前なんだと捉えずに、自分にとって何が大事かを探りながら遊びを楽しめる子供たちであってほしいです。そして、それぞれが、自分なりの原則やおもしろさを追求できるようになり、「自分らしさ」「自分というもの」を確立していってほしいです。

相ノ木っ子のみんな、遊びを通してたくさんのことを学んでいきましょうね。「よく遊び、よく学べ！」

行事予定（９月中旬～10月中旬）

９月１４日（土）	秋季大運動会	
１５日（日）	運動会予備日	
１７日（火）	振替休業日	
２１日（土）	町科学展(～9/22)	
２５日（水）	３年校外学習(ﾏｯｸｽﾊﾞﾘｭ)	
２６日（木）	健康・運動能力向上支援事業	(1・2年)
２７日（金）	３年ふるさと学習	
３０日（月）	４年校外学習(ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ)	
１０月　１日（火）	相撲大会	
２日（水）	相撲大会予備日	
４日（金）	１年ふるさと学習	
７日（月）	研究会のため 13:20 下校	
８日（火）	歯科検診	